

SSH オーストラリア海外研修

隔年で実施している SSH 海外研修は今回で2回目となりました。今年は、8月3日～8月10日の7泊8日の日程で、オーストラリアのクィーンズランド州にて海外研修を行いました。1年生6名、2年生9名、計15名の生徒が参加しました。生徒は、Ipswich Grammar School(高校)での研究発表と授業参加、そしてホームステイにより、英語だけの生活をたっぷり経験しました。スプリングブルックス国立公園では、ゴンドアナ多雨林の観察を通し、森林の多様性を実感し、カランビン自然動物保護園では野生動物の保護活動について学習をしました。そして、サンダーバードパークでは天体観測を行い、南十字星をはじめ日本では見ることのできない南天の星々の観測をすることができました。また、グリフィス大学では、キャンパス見学と研究室でナノテクノロジーの講義を受けました。このような様々な研修を通し、生徒はオーストラリアの自然・歴史・生活について理解が深まり、充実した研修ができたと思います。



SSH 生徒研究発表会 神戸

8月8日(水)～9日(木)に神戸国際展示場で SSH 生徒研究発表会が開催されました。SSH 生徒研究発表会とは全国の SSH 指定校の生徒が集い、自分たちの研究を発表する場です。また、他校の口頭発表を見て他校の生徒と交流することで研究方法等を学び、自分たちの研究の参考にします。優れた発表には文部科学大臣表彰や国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞、審査委員長賞などが与えられます。

本校からは化学部・科学探究の研究「水酸化コバルト水溶液の組成比率の特定」を発表し、ポスター発表賞を受賞しました。



高校生バイオサミット



7月30日(月)～8月1日(水)に山形県にある慶應義塾大学先端生命科学研究所で第8回高校生バイオサミットが開催されました。全国各地から高校生が集まり、合計65のポスターの発表がありました。その中で生物部の作品は、優秀賞となりました。また、審査委員の質問に的確に答え、難しい研究内容を分かり易く発表した3年生の星野直樹君は、審査委員特別賞も受賞しました。研究タイトルは、「アニサキスのトランスポゾン はサケ目から来たのか？」で、寄生によりサケ目のトランスポゾン(動く遺伝子)がアニサキスに転移した可能性が高いことを明らかにしました。全国の高校生や研究者の素晴らしい研究内容に刺激を受け、生物部部員の研究に取り組む意欲が更に高まりました。

地学部 SS フィールドワーク

7月29日(日)～31日(火)に、地学部1・2年生がSSフィールドワークとして箱根巡検を行いました。芦ノ湖、箱根駒ヶ岳(箱根火山の中央火口丘)や大涌谷を巡検し、箱根ジオパークミュージアム、生命の星・地球博物館の見学などを行いました。埼玉には無い火山を実際に体験・巡検して来ました。



SS 講義 「英語プレゼンテーション講座」・「人の脳の特性と科学、実験の意義」

理数科特進合宿中の8月21日(火)に理数科2年生が、22日(水)に理数科1年生が英語プレゼンテーション講座を受講しました。ヴィアヘラー幸代先生を講師にお招きし、英語でのプレゼンテーションの基本スキルや実践、グループワークなどを学びました。演習の成果は、英語研究発表会で披露されます。



8月22日(水)には理数科1, 2年生を対象に科学教育NPO 埼玉たのしい科学ネットワーク代表の清水龍郎先生を講師にお招きし、SS 科学講座「ヒトの脳の特性と科学、実験の意義」を実施しました。今回の講義ではヒトの脳の特性について実体験的に錯覚や認知バイアスを認識すること、科学の方法論である仮説実験的認識における実験の意義について講義していただきました。生徒たちはとても意欲的に参加し、休み時間や講義終了後も清水先生に質問する姿が見られました。

